

青森に蔭かれた六ヶ所再処理を止める種

「安全協定に署名しないでください」の質問書提出行動に参加して

福島老朽原発を考える会 阪上 武

12月18日、「再処理とめよう！全国ネットワーク」からの青森県への質問書提出行動に参加した。行動には、六ヶ所村から菊川さん、八戸から山内さん、青森から平野さん、大阪から小山さんが参加され、県との折衝には、青森県議の鹿内さんと古村さんも同席された。

県側は、エネルギー開発振興課の三上企画調整報道監をはじめ5名が対応した。今回、私たちが特に青森県に対して質問書の形で要請を行ったのは、県が県民の安全安心を守るべき立場にあるからだ。実際、知事が六ヶ所再処理工場に少しでも問題があると認めて、安全協定に署名しないならば、日本原燃は本格運転に踏み切ることにはできない。折衝の場で三上氏は、「もちろん、県民の安全安心を守ることが第一、第一です」と第一を2回も繰り返していた。質問書の内容については、今回は受け取るだけなのでコメントはないという対応だった。私たちは回答期限を1月11日とし、1月15日に直接に回答を聞く場を設けるよう強く要求した。県は、文書での回答は約束したが、文書回答の日や直接説明の場をいつにするかは検討しますというにとどめた。



今回提出した質問書は、まず知事に対して「安全協定に署名しないでください」と要請した上で、「六ヶ所再処理・アクティブ試験の過程で浮上した問題・疑問」を質問事項の形でまとめている。その中では、知事のいう「攻めの農林水産業」と放射能汚染との矛盾を突き、また、ガラス固化体のもって行き場がないことやガラス固化過程の困難を指摘している。それらの矛盾を疑問形で指摘することによって、安全協定が結べない状況をつくり出す材料を提起している。

とりわけ重要な指摘は、六ヶ所再処理工場がお手本としているフランスのラ・アーク再処理工場周辺の農産物や海産物で実際に測定された放射能レベルが、青森県が、六ヶ所再処理工場が本格運転した場合に予測した放射能レベルと余りに違うことを明らかにした点にある。これについて小山さんは、県との折衝、その後の記者会見、さらにその後を訪れた青森県農協中央会、青森県漁連でも丹念に説明された。ラ・アークでの実測値という動かしがたい真実の力というべきか、この内容には強い関心が示された。農協中央会で対応した方などは、実測値と計算値の違いを何度も確認した上で「これが実測値ですか」と資料に見入っていた。今回の行動で出会った青森のみなさんも、さっそくこの内容を広げようと、ニュースへの投稿、ピラまき、学習会の開催などの動きを始めている。

とりわけ重要な指摘は、六ヶ所再処理工場がお手本としているフランスのラ・アーク再処理工場周辺の農産物や海産物で実際に測定された放射能レベルが、青森県が、六ヶ所再処理工場が本格運転した場合に予測した放射能レベルと余りに違うことを明らかにした点にある。これについて小山さんは、県との折衝、その後の記者会見、さらにその後を訪れた青森県農協中央会、青森県漁連でも丹念に説明された。ラ・アークでの実測値という動かしがたい真実の力というべきか、この内容には強い関心が示された。農協中央会で対応した方などは、実測値と計算値の違いを何度も確認した上で「これが実測値ですか」と資料に見入っていた。今回の行動で出会った青森のみなさんも、さっそくこの内容を広げようと、ニュースへの投稿、ピラまき、学習会の開催などの動きを始めている。

東京では年明け1月14日に小山さんと呼んで学習討論集会を開く。質問書にある問題について学び、安全協定を結ばせないために今何ができるか、じっくりと討論する場にしたい。

日時：2008年1月14日(月・祝) 13:30~16:30
場所：豊島区民センター会議室(池袋駅5分)
主催：福島老朽原発を考える会
問合せ：TEL/FAX 03-5225-7213 共同事務所「AIR」まで